

AI駆動型FTO調査におけるパラダイムシフト: SummariaとPatsnap Eurekaの比較優位性 および戦略的適合性に関する包括的分析

Gemini 3 pro

エグゼクティブサマリー

現代の知的財産(IP)ランドスケープにおいて、技術の高度化とグローバル化は、製品開発における侵害予防調査(Freedom to Operate: FTO)の複雑さを指数関数的に増大させている。かつては熟練したサーチャーや特許弁理士が数週間を要して行っていたFTO調査は、今や人工知能(AI)の導入により、劇的な変革の時を迎えている。本レポートは、このAI駆動型FTO調査の最前線に位置する二つの異なるアプローチを代表するツール、「Summaria(サマリア)」と「Patsnap Eureka」について、その技術的アーキテクチャ、実務的ワークフロー、および組織戦略への適合性を徹底的に比較分析したものである。

Summariaは、日本の特許実務の文脈から生まれた「特許読解支援」に特化したツールであり、既存の検索プロセスと人間の専門性をAIが補完する「Human-in-the-loop(人間参加型)」のアプローチを採用している。一方、Patsnap Eurekaは、グローバルなR&Dおよび知財戦略を支援するプラットフォームであり、巨大なデータベースと自律型AIエージェントを統合することで調査プロセス全体を自動化しようとする「End-to-End(完結型)」のアプローチをとる。

本分析の結果、両ツールは「知財業務の効率化」という共通の目的を持ちながらも、解決しようとする課題のレイヤーが根本的に異なることが明らかになった。Summariaは「読む(Reading)」という認知的負荷の軽減に焦点を当て、特に日本国内の精緻な特許実務において高い適合性を示す。対照的に、Patsnap Eurekaは「探す(Searching)」と「構造化する(Structuring)」プロセスを再定義し、言語や技術分野(特に化学・バイオ)の壁を超えたグローバルな探索において圧倒的な優位性を持つ。

組織がFTO調査ツールを選定する際には、単なる機能比較にとどまらず、自社のリスク許容度、リソース配分、そして将来的な知財戦略との整合性を考慮する必要がある。本レポートが、その意思決定における羅針盤となることを企図する。

1. 序論: FTO調査の現代的課題とAIの役割

1.1 侵害予防調査(FTO)の本質とジレンマ

侵害予防調査(FTO)は、新製品やサービスを市場に投入する前に、他者の有効な特許権を侵害していないかを確認する、企業のリスク管理において最もクリティカルなプロセスの一つである。特許

侵害が見過ごされた場合、製品の販売差止請求や巨額の損害賠償請求といった、企業の存続に関わる致命的なリスクを招く可能性がある¹。したがって、FTO調査には「網羅性(Recall)」と「正確性(Precision)」の両立という、極めて高いハードルが課されている。

従来のFTO調査プロセスは、検索式の構築、数千件に及ぶ母集団の作成、そしてその全件を目視で確認するスクリーニングという、膨大な時間と労力を要する作業であった²。ここで常に問題となるのが、「見落とし(False Negative)」と「ノイズ(False Positive)」のトレードオフである。リスクをゼロに近づけるために検索範囲を広げれば広げるほど、無関係なノイズ特許が大量に含まれ、その読解コストは指数関数的に増大する。逆に、効率を優先して検索条件を絞れば、重要な「キラー特許」を見落とすリスクが高まる。このジレンマこそが、長年にわたり知財実務家を悩ませてきた最大の課題であった。

1.2 生成AIによるパラダイムシフト

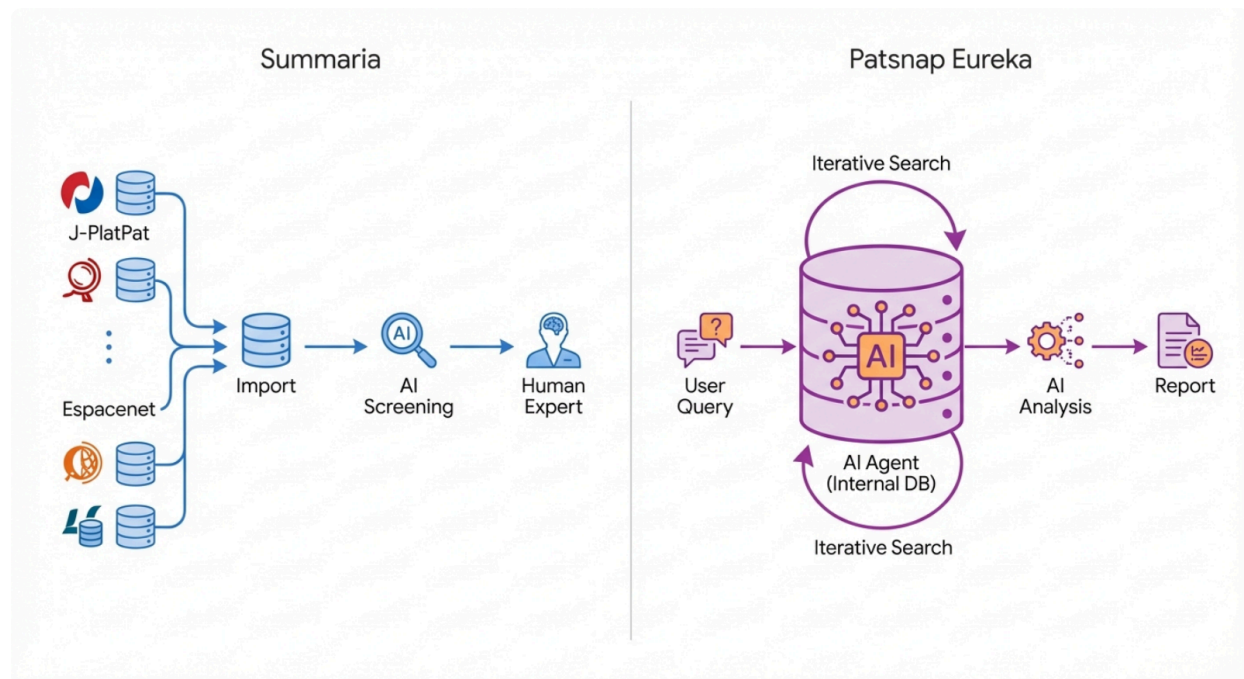
大規模言語モデル(LLM)の登場は、このトレードオフを解消する新たな可能性を提示している。生成AIは、単なるキーワードの一致ではなく、文脈や概念(セマンティック)を理解する能力を持つため、従来の検索手法では漏れてしまう「表現の異なる類似技術」を検出することが可能になる⁴。また、人間には不可能な速度で大量のテキストを読み込み、特許請求の範囲(クレーム)と製品仕様との対比を行うことで、スクリーニング工程のボトルネックを解消することが期待されている。

しかし、AIの導入は新たな課題も生んでいる。AIが提示する結果の根拠が不明確である「ブラックボックス化」や、AIが存在しない情報を生成してしまう「ハルシネーション(幻覚)」のリスクである。FTO調査においては、一つのミスが法的責任に直結するため、AIの出力に対する信頼性と透明性の担保が不可欠となる⁵。

1.3 比較対象ツールの選定: SummariaとPatsnap Eureka

本レポートでは、現在市場で注目を集める二つのAIツールを比較対象とする。一つは、日本の弁理士によって開発され、日本の実務家のニーズに特化した「Summaria(サマリア)」である。もう一つは、シンガポールを拠点とし、グローバルなデータとAI技術を統合したプラットフォーム「Patsnap Eureka」である。

設計思想の比較：読解支援 vs 自律型エージェント



Summariaは外部DBからの入力を前提とした「読解・判定」に特化しているのに対し、Patsnap Eurekaはデータベースを内包し「検索・抽出・判定」を一気通貫で行うプラットフォーム構造を持つ。

Summariaは「特許文書読解支援アシスタント」と定義され、既存のデータベース検索結果を読み込ませることで、その後の読解と判断を支援することに特化している⁶。対してPatsnap Eurekaは、膨大な特許・技術データを内包し、AIエージェントが検索戦略の立案から実行までを自律的に行う「R&Dインテリジェンスプラットフォーム」である⁷。この「支援型(Assistive)」と「自律型(Autonomous)」という根本的な設計思想の違いが、実際のFTO調査のワークフローや得られる成果にどのような差異をもたらすのかを、以下の章で詳細に分析していく。

2. Summaria(サマリア)におけるFTO調査の詳細分析

Summariaのアプローチは、日本の知財実務の現場における「リアリティ」に深く根ざしている。日本の特許調査、特にFTO調査においては、特許分類(FI、Fターム)を駆使した精緻な検索集合の作成が重視される文化がある。Summariaは、この「検索」部分をあえて人間の専門性(または既存の検索ツール)に委ね、その後の「大量の文献を読む」という最も負荷の高い工程をAIで代替・強化する戦略をとっている。

2.1 準備フェーズ：調査対象の特定と母集団形成の外部依存性

Summariaを利用したFTO調査の第一歩は、調査対象となる製品や技術の仕様を明確化することから始まる。しかし、Summaria自体は特許データベースを内包した検索エンジンではないため、ここでユニークなワークフローが発生する。

2.1.1 検索式作成支援とJ-PlatPat等との連携

ユーザーはまず、Summariaの「調査支援ツール」機能を利用して、調査対象技術に関連するキーワードや特許分類の提案を受けることができる⁸。具体的には、製品の仕様書や発明の概要をテキストとして入力すると、AIがその内容を解析し、検索に有効と思われるキーワード候補や、IPC、FI、Fタームといった特許分類をリストアップして提示する。

ここで重要なのは、提案された検索式を実行する場所がSummaria「外」であるという点である。ユーザーは、提案された検索戦略に基づき、J-PlatPat（特許情報プラットフォーム）やCyberPatent、Orbitなどの外部商用データベースにログインし、実際に検索を行う必要がある⁹。これは、検索式のコントロール権を完全にユーザーが握ることを意味し、熟練したサーチャーにとっては、自身のノウハウを活かした納得感のある母集団形成が可能であるというメリットがある。一方で、検索スキルを持たないユーザーにとっては、複数のツールを行き来する必要があるため、プロセスの分断がハードルとなる可能性がある。

2.1.2 検索集合（母集団）のインポートとデータ制約

外部データベースで作成された特許リスト（母集団）は、CSV形式やテキストデータとしてSummariaにインポートされる。このプロセスにおいて留意すべき技術的制約として、SummariaはPDFや画像データの直接的な読み込みに対応していない場合がある点だ¹¹。これは、特に古い公報や図面中心の意匠公報などを扱う際に、OCR処理やテキスト抽出といった前処理が必要になることを示唆しており、ワークフロー上のボトルネックとなり得る。しかし、テキストデータさえ用意できれば、Summariaはその強力な言語処理能力を発揮する準備が整う。

2.2 スクリーニング・対比フェーズ：AIによる「読解」の深化

母集団が取り込まれると、Summariaの核心機能である「対比支援機能（Comparison Support Function）」が作動する。ここでのAIの挙動は、単なるキーワードマッチングとは一線を画す「意味的読解」である。

2.2.1 対比支援機能のメカニズム

ユーザーは、調査対象となる自社製品の仕様（構成要件）を詳細に入力する。AIは、インポートされた各特許文献の請求項（クレーム）および明細書の記載を読み込み、入力された製品仕様と照らし合わせる。この際、AIは単語の有無だけでなく、文脈上の意味を解釈する。例えば、製品仕様に「金属製の固定具」があり、特許に「剛性のある締結部材」と書かれている場合、AIはこれらが概念的に一致または関連する可能性があるかと判断する能力を持つ¹²。

2.2.2 スコアリングと根拠の提示

AIによる対比の結果は、以下の三つの要素として出力される¹³。

1. 関連度スコア (**Relevance Score**): その特許が自社製品にとってどれほどのリスク(または関連性)を持つかを数値化する。これにより、ユーザーはスコアの高い順に確認を行うトライアージが可能になる。
2. 判断理由 (**Reasoning**): なぜそのスコアが算出されたのか、AIが自然言語で説明する。「請求項1の〇〇という構成要件が、製品仕様の△△と一致しているため」といった具体的な根拠が示されることで、ユーザーはAIの判断の妥当性を即座に検証できる。
3. 相違点の抽出 (**Differentiation**): リスクがない(非侵害)と判断された場合、その理由となる「構成要件の不一致」を明確にする。これは、FTO調査における「クリアランスの根拠」として極めて重要である。

2.2.3 ノイズスクリーニングの実効性

FTO調査において最も時間を奪うのは、明らかに無関係な「ノイズ特許」の確認作業である。Summariaは、技術分野の違いや構成要件の欠落を根拠に、これらノイズ特許を効率的に「枝刈り」する機能を持つ¹⁴。過去の特許検索競技大会の課題を用いた検証では、上位100件の集合について85%以上の再現率(Recall)を達成したというデータがあり¹⁶、AIによるスクリーニングが人間の代替として実用レベルに達していることを示唆している。

2.3 評価・レポート作成フェーズ: 実務直結のアウトプット

AIによる一次スクリーニングを経た特許群は、最終的に人間の専門家によって精査される。Summariaはこの「人間による確認」を支援するためのUI/UXに優れている。

2.3.1 ハイライト表示と用語解説

専門家が特許を読む際、Summariaは重要なキーワードや構成要件を色分けしてハイライト表示する機能を提供する¹⁸。さらに、難解な専門用語や社内用語について、AIチャットボットに「この用語はどのような意味か?」と質問すれば、明細書の文脈に即した解説が即座に生成される⁶。これにより、専門分野外の特許や、特殊な定義がなされた用語を含む特許の読解スピードが大幅に向上する。

2.3.2 報告書作成の効率化

調査結果は、そのまま報告書のドラフトとして出力可能である。AIが生成した「関連度スコア」や「判断理由」のテキストは、弁理士や知財担当者が作成する調査報告書のコメントとして流用できる品質を持っており、ドキュメンテーション業務の負荷を劇的に軽減する²⁰。

3. Patsnap EurekaにおけるFTO調査の詳細分析

Patsnap Eurekaが提示するのは、Summariaのような「支援」ではなく、調査プロセスそのものの「変革」である。グローバルなデータプラットフォーム上に構築された自律型AIエージェント「Hiro」は、ユーザーが入力した自然言語の指示に基づき、検索から分析までを一気通貫で実行する。このアプローチは、特に多国籍企業やR&D部門における「知財の民主化」を加速させる。

3.1 入力フェーズ: 自然言語による技術定義と構造化

Patsnap Eurekaのワークフローは、複雑な検索式(クエリ)の構築をユーザーに要求しない点から始まる。

3.1.1 技術ソリューションの記述

ユーザーは、開発中の製品や技術の内容を、自然言語で入力ボックスに記述する。例えば、「エレベーターのドアの動きを加速度センサーで監視し、異常を検知するシステム」といった具体的な文章である²¹。ここでは、ブール演算子や特許分類コードの知識は一切不要であり、R&Dエンジニアが自身の言葉で技術を説明するだけでよい。

3.1.2 技術的特徴(構成要件)の自動抽出

入力されたテキストを受け取ったAIエージェントは、即座に自然言語処理(NLP)を行い、その技術を構成する重要な要素(Technical Features)を分解・抽出する。例えば、「加速度センサー」「制御装置」「異常検知アルゴリズム」「ドア開閉機構」といった具合である²²。ユーザーには、抽出された構成要件のリストが提示され、これを確認・修正(Confirm/Edit)するステップが設けられている。このプロセスにより、AIがユーザーの意図を正しく理解しているかを担保し、検索の精度を底上げする。

3.2 検索・実行フェーズ: マルチラウンド検索とセマンティック技術

ユーザーが構成要件を承認し「検索開始」をクリックすると、AIエージェントはバックグラウンドで高度な検索戦略を実行に移す。

3.2.1 自律的なマルチラウンド検索

Patsnap EurekaのAIは、一度の検索で終わるのではなく、人間のように試行錯誤を行う「マルチラウンド検索」を実行する²²。最初の検索結果を分析し、関連性の高い特許から新たなキーワードや分類コード(CPC/IPC)を学習し、検索クエリを自動的に修正・拡張して再検索を行う。これにより、初期の入力では想定していなかった用語や概念を含む特許を拾い上げることが可能になる。

3.2.2 セマンティック検索とグローバルデータの活用

Patsnapの最大の強みは、170以上の管轄区域、1億8000万件以上の特許文献および非特許文献(論文等)を含む巨大なデータベースへの直接アクセス権である²³。AIは、このデータベースに対してベクトル化された意味空間での検索(セマンティック検索)を行う。これにより、言語の壁(例えば中国語の特許を英語で検索する)や、用語の不一致(「車両」と「自動車」など)を乗り越え、概念的に類似した技術を網羅的に検出する。これは、キーワード検索に依存する従来手法と比較して、再現率(Recall)を飛躍的に向上させる要因となる。

3.3 分析・マッピングフェーズ: 自動化された侵害リスク評価

検索により抽出された特許群に対し、AIはFTO調査の核となる「クレームマッピング」を自動的に実行する。

3.3.1 クレームチャートの自動生成

AIは、抽出された各特許の請求項(独立項および従属項)を、ステップ3.1で定義した自社製品の構成要件と対比させる。そして、各構成要件が特許請求の範囲に含まれているかどうか(Literal Infringement)を判定し、マトリクス状のクレームチャート(Comparison Matrix)を生成する²¹。

3.3.2 Glass Box AIによる透明性の確保

Patsnapは、AIの判断根拠をブラックボックス化させないための「Glass Box(透明な箱)」アプローチを採用している。AIが「リスクあり(High Risk)」と判定した場合、その根拠となる特許明細書の具体的な段落や文言を引用し、ハイライト表示する⁷。これにより、ユーザーはAIの結論を鵜呑みにするのではなく、提示された証拠(Evidence)に基づいて自ら最終判断を下すことができる。

3.3.3 化学・バイオ分野への特化機能

特筆すべき点として、Patsnapは化学構造式や生物学的配列(シーケンス)の検索・分析においてもAIを活用している。特に化学分野では、マルクーシュ構造(Markush Structure: 一つの化学構造式で多数の化合物を定義する手法)を含む特許の侵害リスク判定は極めて難易度が高いが、PatsnapのAIはこれを構造レベルで解析し、特定の化合物が含まれるかどうかを判定する機能を持つ²⁶。これはテキストベースの解析しか行わないSummariaにはない、決定的な差別化要因である。

3.4 レポートフェーズ: 意思決定を加速するアウトプット

最終的に生成されるFTOレポートには、クレームマッピングの結果だけでなく、各特許の法的ステータス(生存、消滅、期限切れ間近など)や、パテントファミリー情報も統合される²²。これにより、知財担当者は「どの国で」「いつまで」権利が有効か即座に把握でき、ライセンス交渉や設計変更(Design Around)の検討といった次のアクションへ迅速に移行できる。

4. コア機能とパフォーマンスの比較検討

両ツールの詳細なワークフロー分析を踏まえ、FTO調査の品質と効率を決定づける主要な指標において、両者がどのように異なるパフォーマンスを示すかを比較検討する。

4.1 検索精度と再現率(Recall vs Precision)

FTO調査における最大のリスク指標は「再現率(Recall)」、すなわち侵害リスクのある特許をどれだけ漏らさず拾えるかである。一方で、実務の効率性は「適合率(Precision)」、すなわち拾った特許のうちどれだけが真に関連するものかによって決まる。

- **Summaria:** 人間主導による再現率のコントロール Summariaの再現率は、AIではなく「母集団を作成する人間」のスキルに依存する。熟練したサーチャーが作成した母集団であれば、その後のAIによるスクリーニング(ノイズ除去)は非常に高い精度(検証データで85%以上)で機能し、結果として高品質なFTO調査が実現する¹⁶。しかし、母集団作成の段階で漏れがあれば、Summariaはそれを救済できない。つまり、Summariaは「適合率(効率)」を劇的に向上させる

ツールであるが、「再現率」の担保はユーザーの責任となる。

- **Patsnap Eureka**: AI主導による再現率の最大化 Patsnapはセマンティック検索により、人間が思いつかないキーワードや分類を用いた特許も拾い上げるため、潜在的な「再現率」は非常に高い。Patsnapの主張によれば、従来のブール検索と比較して40-60%多くの関連特許を識別可能である⁴。また、進歩性否定文献(X文献)の検出率テストにおいても81%という高いスコアを記録している²⁹。AIが網羅的に拾い上げ、その後のランキングやフィルタリングで適合率を高めるアプローチをとるため、特に「未知のリスク」の発見において優位性がある。

4.2 データベースのカバレッジとリアルタイム性

- **Summaria**: 外部依存の限界と自由度
自社データベースを持たないSummariaは、データの鮮度や範囲がユーザーの利用する外部DBに依存する。これは、ユーザーがJ-PlatPatのような無料DBを使うか、高額な商用DBを使うかで調査の質が変わることを意味する。また、PDFの読み込み制限など、データの取り込みに関する摩擦(Friction)が存在する点は否めない。
- **Patsnap Eureka**: 統合プラットフォームの強み 170カ国以上のデータを内包し、法的状況(リーガルステータス)や訴訟情報がリアルタイムで更新されるPatsnapは、データの質と鮮度において安定している³⁰。特に、FTO調査では「死んだ特許(権利消滅)」を除外することが重要だが、Patsnapはこのフィルタリングを自動かつ正確に行える点で、外部DBと連携する手間が必要なSummariaよりも効率的である。

4.3 言語処理能力とローカライゼーション

- **Summaria**: 日本語特許の深い理解 日本の弁理士が開発したツールだけあり、日本語の係り受け解析や、日本特有の曖昧な技術表現の解釈において卓越している。AIへの指示も日本語で微細なニュアンスを伝えることができ、出力されるレポートの日本語もそのまま実務で使えるレベルに洗練されている⁶。
- **Patsnap Eureka**: 多言語対応と翻訳の質
Patsnapは機械翻訳とLLMを組み合わせることで、中国語や韓国語の特許を英語(または日本語)で検索・分析することを可能にしている。グローバル対応力は高いが、日本語特許の微妙な権利範囲の解釈においては、Summariaほどの「ネイティブな感性」を期待するのは難しい場合がある。

機能別適合性ヒートマップ：Summaria vs Patsnap Eureka

ツール特性比較

	Summaria	Patsnap Eureka
検索機能（自律型）	外部DB依存 (読解支援のみ)	AIエージェント (自律検索)
日本語読解・解析	高精度 (日本語特化)	翻訳対応 (グローバル標準)
グローバル収録国数	国内中心 (要約作成)	170カ国以上 (2億件超)
化学・構造検索	テキストのみ	構造・配列検索 (化学特化)
導入コスト	月額8,000円～ (高コスバ)	法人向け価格 (エンタープライズ)
J-PlatPat連携	読解アシスト (親和性高)	独立PF (スタンドアロン)

適合性スコア

High

Low

Summariaは「日本語読解」と「コストパフォーマンス」で最高評価となる一方、Patsnapは「検索機能（自律型）」「グローバル対応」「化学・構造検索」で優位性を示す。

Data sources: [Summaria Features](#), [Patsnap FTO Guide](#), [Patsnap Search Tools](#), [Summaria Pricing](#), [Summaria Usage](#), [Patsnap Chemical](#)

5. コスト構造、ROI、および導入障壁

ツールの選定において、機能と同等以上に重要なのがコスト構造と投資対効果(ROI)である。両ツールは、ターゲットとする顧客層と課金モデルが大きく異なる。

5.1 Summaria: SaaS型サブスクリプションによる低障壁導入

Summariaは、月額8,000円からという非常に安価な価格設定で提供されており、Web上で完結するSaaS(Software as a Service)モデルを採用している³²。

- **ROIの観点:** 初期投資がほぼ不要であるため、個人事業主の弁理士や、予算の少ない中小企

業の知財部でも即座に導入できる。「1件の調査にかかる時間を半分にする」という明確な時間短縮効果が得られれば、数時間分の人件費削減で月額料金を回収できる計算になり、ROIは極めて高い。

- 導入障壁: クレジットカード決済で即日利用可能であり、大規模な社内決裁やシステム統合プロジェクトを必要としない「軽さ」が最大の魅力である。

5.2 Patsnap Eureka: エンタープライズ契約と戦略的投資

Patsnap Eurekaは、企業の規模やユーザー数、必要なモジュール(化学、バイオ、分析など)に応じた年間契約モデルであり、費用は数千ドルから数十万ドルに及ぶ³⁴。

- ROIの観点: 単なるツール導入ではなく「インフラ投資」としての性質を持つ。全社的なR&D効率の向上(調査待ち時間の短縮による開発スピードアップ)、外部調査会社への委託費用の削減、そして訴訟リスク回避による数億円規模の損失防止といった、マクロな視点でのROI評価が必要となる。Patsnapは導入企業に対して「3-5倍のROI」を提示している⁴。
- 導入障壁: 高額な予算確保に加え、セキュリティ審査(SOC2準拠など)や社内トレーニング、既存ワークフローの変更など、導入には組織的な意思決定と準備期間が必要となる。

6. ユーザーインターフェースと操作性(UX)の比較

6.1 Summaria: 実務家の「手」の延長

SummariaのUIは、特許公報を「読む」ことに特化して設計されている。画面の左側に特許全文が表示され、右側にチャットパネルが配置される構成は、紙とペン、あるいはデュアルディスプレイで作業することに慣れた実務家にとって直感的である¹⁹。また、「一括処理」機能により、数百件のリストに対して一気に指示を出し、夜間にAIに作業させて翌朝確認するといった、実務家のタイムラインに合わせた使い方が可能である³⁶。

6.2 Patsnap Eureka: 探索的なインテリジェンス体験

PatsnapのUIは、現代的なSaaS特有の洗練されたデザインを持ち、チャットボット「Hiro」との対話を中心に据えている。複雑な検索コマンドを覚える必要がなく、質問を投げかけるだけで回答が得られるため、知財専門家ではないエンジニアや研究者にとっても敷居が低い³⁷。また、検索結果を3Dパテントマップやグラフで視覚化する機能が充実しており、調査結果を経営層にプレゼンテーションする際の資料作成ツールとしても強力である²⁴。

7. 結論と戦略的推奨

7.1 両ツールの本質的な違いの総括

SummariaとPatsnap Eurekaは、どちらもFTO調査を効率化するAIツールであるが、そのアプローチ

は対照的である。

- **Summaria**は**「人間の専門性を拡張するツール(Augmentation)」**である。検索という高度な判断を人間に残し、その後の「読解」という重労働をAIが肩代わりする。日本の知財実務の精度と品質を維持しながら、効率だけを劇的に高めたい組織に最適である。
- **Patsnap Eureka**は**「プロセスを自動化・代替するプラットフォーム(Automation)」**である。検索から分析までをAIエージェントに委任し、人間は最終的な意思決定に集中する。グローバルな競争環境下でスピードと網羅性を重視し、知財業務の民主化(R&D部門への開放)を進めたい組織に適している。

7.2 組織タイプ別の推奨事項

ケースA: 国内特許事務所または中堅・中小企業の知財部

- 推奨ツール: **Summaria**
- 理由: 既存のJ-PlatPat等での検索スキルが既に組織内にあり、コストを抑えつつ日本語特許の調査効率を上げたい場合、Summariaがベストチョイスとなる。日本語の微妙な権利解釈が必要な事案において、その信頼性は高い。

ケースB: グローバル展開する大企業のR&Dおよび知財部

- 推奨ツール: **Patsnap Eureka**
- 理由: 世界各国の特許を網羅的に調査する必要がある、特に化学・バイオ分野を含む場合、Patsnap以外の選択肢は限定的である。また、R&Dエンジニア自身に初期的なクリアランス調査を行わせる文化を醸成したい場合、その直感的なUIとAIエージェント機能が強力な武器となる。

ケースC: ハイブリッド戦略の可能性

予算が許すならば、両ツールを併用する**「ハイブリッド戦略」**が理想的である。Patsnapを用いてグローバルな広範囲の検索(母集団形成)と一次スクリーニングを行い、そこで抽出された特に重要かつリスクの高い日本特許や、詳細な対比が必要な特許については、テキストデータとしてエクスポートし、Summariaに読み込ませて深い読解と分析を行う。この連携により、「Patsnapの網羅性」と「Summariaの精読力」の双方を享受し、FTO調査のリスクを極限まで低減させることが可能となるだろう。

7.3 将来展望

AI技術の進化は止まらない。将来的には、Summariaが検索機能を強化し外部DB依存を脱却する可能性や、Patsnapがローカル言語(日本語等)の解析精度をさらに高め、日本の実務家をも満足させるレベルに達する可能性もある。しかし現時点において、FTO調査という法的リスクを伴う業務においては、ツールの特性(強みと制約)を正確に理解し、自社の戦略に合わせて「使い分ける」リテラシーこそが、最強の武器となることは間違いない。

引用文献

1. FTO(侵害予防調査)徹底解説: リスク回避から始まる「攻め」の知, 2月 16, 2026にアク

セス、

<https://patent-revenue.iprich.jp/%E5%B0%82%E9%96%80%E5%AE%B6%E5%90%91%E3%81%91/4162/>

2. 特許クリアランス調査とは？ | 特許侵害を予防する基本の調査, 2月 16, 2026にアクセス、<https://innovative-journey.com/patent/research/clearance-898.html>
3. 【FTO調査とは何か？】製品・サービスの知財リスクを未然に防ぐAI, 2月 16, 2026にアクセス、https://note.com/yutori_jd/n/n4d8de4ebbce0
4. AI Patent Search Tools for FTO Analysis: 2025 Guide - Patsnap, 2月 16, 2026にアクセス、
<https://www.patsnap.com/resources/blog/articles/ai-patent-search-tools-fto-analysis-2025/>
5. AIEージェントによる特許調査: 信頼性 の検証とイブリッド 活用の, 2月 16, 2026にアクセス、
https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/ai_patent_search_trust_and_strategy.pdf
6. サマリアを利用した侵害予防調査支援 | 大瀬 佳之 / Ose Yoshiyuki, 2月 16, 2026にアクセス、https://note.com/ose_yosshy/n/ne7b83a6f187d
7. Patsnap Eureka - AI Agents for IP & R&D Innovation Platform, 2月 16, 2026にアクセス、<https://www.patsnap.com/products/eureka/>
8. 調査支援ツール | 特許文書読解アシスタント・サマリア, 2月 16, 2026にアクセス、
<https://patent-i.com/summaria/manual/research>
9. 新機能「調査支援機能」のリリース・生成AIを用いた特許調査、分類, 2月 16, 2026にアクセス、<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000015.000086119.html>
10. サマリアを利用した特許文書の分類作業 | 大瀬 佳之 / Ose Yoshiyuki, 2月 16, 2026にアクセス、https://note.com/ose_yosshy/n/nbc00fb082bb8
11. 【拒絶対応支援ワークフロー】拒絶対応支援ワークフローの実行方法, 2月 16, 2026にアクセス、https://www.youtube.com/watch?v=Bu7WBcy_7CY
12. 対比支援機能 | 特許文書読解アシスタント・サマリア, 2月 16, 2026にアクセス、
<https://patent-i.com/summaria/manual/screening>
13. サマリア詳細分析: 特許実務における次世代 AI の評価, 2月 16, 2026にアクセス、
<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/c7d5eaa1982b5b5e5ece.pdf>
14. 特許文書読解支援アシスタント・サマリア - YouTube, 2月 16, 2026にアクセス、
<https://www.youtube.com/watch?v=Dz9ZSrB6nwl>
15. 特許読解アシスタント「サマリア」に知財実務を支援する革新的な, 2月 16, 2026にアクセス、
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000004.000086119.html>
16. サマリアが特許検索競技大会に挑戦し再現率85%以上を達成！ AI, 2月 16, 2026にアクセス、
<https://voix.jp/biz/news/163014/>
17. 特許検索競技大会の問題に「サマリア」が挑戦。集合上位100件 ..., 2月 16, 2026にアクセス、
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000018.000086119.html>
18. 特許文書読解支援アシスタント・サマリア - YouTube, 2月 16, 2026にアクセス、
<https://www.youtube.com/watch?v=iV5slM-i-rg>
19. AIアシスタント機能 | 特許文書読解支援アシスタント・サマリア, 2月 16, 2026にアクセス、
<https://www.youtube.com/watch?v=nqMmZMwlp8>
20. サマリア(Summaria) | 特許文書読解支援サービス, 2月 16, 2026にアクセス、
<https://patent-i.com/summaria/offer/WO2021/172912>

21. Guide to FTO Search - by Patsnap Eureka, 2月 16, 2026にアクセス、
<https://eureka.patsnap.com/blog/guide-to-fto-search/>
22. FTO Search Explained: A Complete Guide to Freedom to Operate, 2月 16, 2026にアクセス、
<https://eureka.patsnap.com/blog/fto-search-complete-guide/>
23. FTO Analysis 2025: Complete Guide to Patent Validity & Enforceability, 2月 16, 2026にアクセス、
<https://www.patsnap.com/resources/blog/articles/fto-analysis-patent-validity-guide-2025/>
24. Cut Patent Search Time from Weeks to Minutes with AI Analytics, 2月 16, 2026にアクセス、
<https://www.patsnap.com/resources/blog/cut-patent-search-time-ai-analytics-2025/>
25. Freedom to Operate Analysis: Complete FTO Search Guide 2025, 2月 16, 2026にアクセス、
<https://www.patsnap.com/resources/blog/articles/freedom-to-operate-fto-analysis-guide-2025/>
26. Workflow - FTO Searching for Generic Pharma - Patsnap Help Center, 2月 16, 2026にアクセス、
<https://help.patsnap.com/hc/en-us/articles/4411268461585-Workflow-FTO-Searching-for-Generic-Pharma>
27. FTO Search for Pharmaceutical Patents: 2025 Guide - Patsnap, 2月 16, 2026にアクセス、
<https://www.patsnap.com/resources/blog/articles/pharmaceutical-patent-fto-search-guide-2025/>
28. 7 Trending FTO Search Tools for Patent Attorneys in 2025 - Patsnap, 2月 16, 2026にアクセス、
<https://www.patsnap.com/resources/blog/articles/fto-search-tools-patent-attorneys-2025/>
29. PatentBench - AI-driven Novelty Search Benchmark - Patsnap, 2月 16, 2026にアクセス、
<https://www.patsnap.com/benchmark>
30. What Are the Best Patent Databases for Comprehensive Coverage?, 2月 16, 2026にアクセス、
<https://www.patsnap.com/resources/blog/articles/best-patent-databases-comprehensive-coverage/>
31. 特許文書読解支援アシスタント・サマリア - クイックアシスト機能, 2月 16, 2026にアクセス、
<https://www.youtube.com/watch?v=JLfJz6if5NQ>
32. 特許読解AIアシスタント「サマリア」が第37回「中小企業優秀新, 2月 16, 2026にアクセス、
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000011.000086119.html>
33. サマリア・有料プランの御案内 | 特許文書読解アシスタント・サマリア, 2月 16, 2026にアクセス、
https://patent-i.com/summaria/manual/R_20240104
34. PatSnap Eureka Review - Features, Pricing & Alternatives | ToolIQ.ai, 2月 16, 2026にアクセス、
<https://tooliq.ai/tools/top-ai-tools/patsnap-eureka>
35. PatSnap raises \$300m to boost patent search with AI - AI Business, 2月 16, 2026にアクセス、
<https://aibusiness.com/verticals/patsnap-raises-300m-to-boost-patent-search-w>

[ith-ai](#)

36. 一括処理機能 | 特許文書読解支援アシスタント・サマリア - YouTube, 2月 16, 2026にアクセス、<https://www.youtube.com/watch?v=iwl3kjfOYRo>
37. The Best AI Research Assistant for 2025 - Patsnap Eureka, 2月 16, 2026にアクセス、<https://eureka.patsnap.com/blog/top-ai-research-assistant-tools/>